

## B案、C案に対する比較考量

本チームは一貫して、旧広島市民球場跡地（以下、球場跡地）には「文化芸術機能（文化芸術創造機能）」がふさわしいと考えて来た。これまでの議論を踏まえ、本チームの考察を改めてまとめた上で、各チェック項目を検討する。

1. 平和記念公園の「平和」の機能と対となる、球場跡地・中央公園の「文化」の機能によって、球場跡地を広島市の都市像「国際平和文化都市」を象徴する空間とする。そのことを視覚的に表すために、平和記念公園の都市軸を積極的に球場跡地にも導入する。
2. したがって、球場跡地利用は、その主たる機能については「文化芸術機能」がふさわしい。
3. 文化芸術機能は、「まなぶ」、「つくる」、「つたえる」の3つのテーマで構成される。
4. 文化芸術機能は、既存の施設・機能を集約・再編成し、これらを高度に結びつけることを基本とし、既存施設ではまなかえない「つくる」機能を新規に設置する。
5. 球場跡地の整備は、「まなぶ」、「つたえる」、「つくる」の順番に段階を迫って徐々に整備する。
6. 文化芸術機能の建築・敷地は、平和記念公園、平和記念資料館、慰霊碑、原爆ドームと並んで遜色ない、将来にわたって広島の誇りとなる優れた設計がふさわしい。
7. 文化芸術というと、美術館で作品を、また、ホールやシアターでコンサートや演劇を鑑賞するものという印象が先行しがちだが、若者が試行錯誤を通じて新しい価値を創造することを、文化芸術機能の特徴的機能とする。
8. 文化芸術機能の様子は、相生通りなどからも見えるようにすることで、視覚的にも文化芸術の活気ある様子を一帯で共有する。
9. 3年に一度表彰されるヒロシマ賞受賞者に特別な作品を制作してもらい、都市軸上・球場跡地内に配置する。作品は3年に一度の表彰のタイミングで展示替えを行う。これを、平和記念公園の慰霊碑と対置する創造の象徴とする。
10. これらの整備は、被爆100年後の2045年を目指して長期的に整備する。

### I. 前提（跡地の特性、特徴などを踏まえているか）

#### I-1. 跡地の特性、特徴

##### I-1-(1). 広島城築城以来、戦後復興に至るまで、広島市の都市としての歴史を象徴してきた場

#### 広島開基の地、基町

基町は、その名のとおり、ここが広島開基の地であることを示す。その基町の一角におかれる施設機能は、この地の歴史的見地を鑑みて、長く将来にわたって広島市を象徴するものがふさわしい。その機能とは、まちをつくる原点としての機能である。それは都市の歴史に裏付けられたビジョンであり、広島市の都市像である「国際平和文化都市」を表す象徴的機能である必要がある。

また、旧広島市民球場は、戦後復興の象徴の1つであった。カープの試合の活気あふれる様子は、大いに市民の気持ちを鼓舞したことと思う。その熱気溢れる場所としての記憶を、文化芸術における「創造」に受け継ぎたい。文化芸術は、絵画や彫刻を鑑賞・観劇するばかりと思われがちであるが、若者のダンスや、現代美術のワークショップなど、体を動かして楽しむものもある。また、試行錯誤の中から生み出される新しい表現は、生きいきとした新鮮な驚きを人々に与える。文化芸術機能を球場跡地に配置することは、観光客や市民に、この場所から広島の新しい文化芸術の魅力が次々に生まれてくる様子をアピールすることになる。

I-2-(2). 世界文化遺産「原爆ドーム」に近接し、国内外の多くの人々にアピールできる、広島市を代表する場

原爆ドームとは何か？

原爆ドームは、広島の被爆と平和の象徴であり、世界遺産である。世界遺産とは、顕著な普遍的価値を有するものであり、原爆ドームはその文化遺産として分類されている。

旅行レビューサイト「トリップアドバイザー」による2012年の利用者調査では、海外からの旅行者から人気のある日本の観光スポットは、1位原爆ドーム、2位箱根彫刻の森美術館、3位伏見稲荷大社、4位宮島（厳島神社）である。ヨーロッパからの旅行者のランキングでは、2位宮島（厳島神社）、3位原爆ドームである。

広島は、ヨーロッパとアメリカからの旅行者への訴求力が高く、これらの旅行者からは、文化や歴史が求められている。文化・歴史を求める観光客に対して、球場跡地の文化芸術機能は、広島市がどのように復興し平和を築いているかを、現在進行形で示すものとして、被爆と平和の象徴である原爆ドームと好対照をなすものとなる。

また、市民生活に密着した図書館などの機能が公共交通機関の終点にあれば、様々な市民生活のシーンにおいて、日常的に文化に触れる機会を提供できる。

## I-2. コンセプト

若者を中心としたにぎわいのための場（長期的な視点・まちづくりの視点）

将来的にみて跡地が魅力ある空間であると評価してもらえるようにするため、そのあり方を考えていくこと

若者とは誰か？

若者の一般的な定義はないが、内閣府などの資料から考えて、中学生からおおむね30歳未満の男女を指すと考えてよい。また、若者像は様々であるが、社会的人間へと成熟の過程にあるものといえるだろう。言い換えるならば、若者とは未成熟であるということと、それ故に希望や可能性を大きく秘めているものといえる。さらに、この若者とは、都市像「国際平和文化都市」の国際都市に鑑みて、広島市の若者に限らず、国内外様々な国と地域の若者を想定すべきである。

にぎわいとは何か？

広辞苑を調べると、「賑わい」とは「賑わうこと」である。「賑わうこと」とは、「①富み栄える。ゆたかになる。②にぎやかになる。」ことである。「豊かさ」とは、「①満ち足りたさま。不足のないさま。十分に余りあるさま。②ゆるやかなさま。のびのびとしたさま。」である。広島らしさ（歴史、拠点性、風土、都市像など）に見合う、若者を中心とした「にぎわい」をどのように創出するかが課

題である。

つまり、「若者を中心としたにぎわい」とは、「人として成熟する過程にある若者が、豊かにのびのびとすること」と言い換えられる。若者の豊かさやのびやかさは、何によってどのように実現できるか。

広島若者と国内外の若者が交流しながら、過去に学び未来を想像するための、創造の場所をつくることで、若者を中心としたにぎわいの場をつくることができる。

文化芸術は、様々な価値に触れることで、自己と他者を見つめる機会となる。また、自らが属する文化に目を向け、他国の文化を理解することにも繋がる。このことは、平和を考えることでもある。

各々がのびのびと文化芸術にふれ、また、自ら何かを創造しようと試みることにぎわい、豊かさ、のびやかさとなる。球場跡地は、広島が若者らへ、こうした豊かさやのびやかさを贈る場所であってほしい。

誰による評価か？

文化芸術機能にふれた若者が将来どのような大人になっていくか。そのことで、この機能が評価される。つまり、10年20年という長いスパンを想定すべきである。

被爆100年後、2045年には、終戦年の1945年を経験した人々の存命率は極めて低くなる。先の大戦を直接に経験した多くの人々が亡くなるのである。このことは、世界中で同時に起こることである。その時、広島都市像「国際平和文化都市」が、どのような成果を生み出したかが問われるのではないだろうか？

[まちづくりの視点：にぎわい]

旧市民球場跡地を含む紙屋町・八丁堀地区について、都市全体のバランスを考慮しながら、文化・芸術、商業、スポーツ等のいずれの視点で活力を持たせるのかを考えていくこと

球場跡地と周辺地域の活性化の関係のあり方

このことは、周辺地域の経済効果（より正確に言えば、消費活動の新たな推進源）を即効性がある形でいかに演出するかという課題とは、必ずしも一致しない。もっとも、若者の賑わいと経済効果は無関係ではない。若者の多くは小さな経済力しか持たないが、彼らも将来は大きな消費者になる。その彼らが、広島風土・歴史に培われた様々な産品・文化に魅力を感じ、積極的に消費するように育てることが重要である。

球場跡地委員会におけるにぎわいに関する発言の一部から

1. 周辺地域に経済効果をもたらすことを強く期待する、ということ。
2. 人がたくさん集まるにぎわいのある場所をつくりたい、ということ。
3. 原爆ドームや平和記念公園を無視したものはできないが、平和記念公園の拡張は望まないこと。
4. 未来志向の場をつくりたい、ということ。
5. 世界遺産である原爆ドームの目の前に位置するということもあり、世界に誇れるようなものにした、ということ。

以上が委員会などで目立った意見である。本チームは、2～5に同意する。しかし、「にぎわいによる経済活動活性化への期待」が、「わかものを中心としたにぎわいの創出」よりも重視されている傾向があることには、懸念を覚える。また、文化芸術ではにぎわいが創出できないという意見もあったが、既存施設の利用者数を調査したところ、必ずしもそうはいえないことを確認済である。

都市全体のバランス

紙屋町・八丁堀一帯は、商業・消費活動の空間として中国地方随一の規模を誇る。また、広島駅周辺は新たな経済活動の拠点として期待される。これに対して平和記念公園は国内に限らず海外に向けて

も広くアピールできる（すべき）空間である。これに隣接する空間（球場跡地）は、海外にも向けて誇れるものとし、隣接して広島市の地域性豊かな商業・消費活動の空間が展開することで、世界と地域が交流する人の流れをつくることが肝要である。

### I-3. テーマとなる考え方

#### 広島市の個性を生かし、魅力を高める未来志向の場として活用

文化芸術を創造することは、既成の価値を享受するのみならず、過去に学び新しい価値を創出することである。

創造がある成果に至るには、失敗、挫折、無駄、やり直し、混乱、停滞といった一般にはネガティブな印象をもたれがちなプロセスを大量に必要とする。前例がないことに挑戦することは、結果が確実に予想できる計画をたてられないことを意味する。より厳しい状況を想定するならば、見通しのつかない状況において、どのように問題を解決するか、希望をもって取り組む姿勢が、「新しいことを考え、つくること」には期待される。

なぜ、「新しいことを考え、つくること」が重要なのか？ あらゆる手を尽くして計画されたことが失敗した場合にでさえ、現状から新たに着手すること。そのことは、何物にも代え難い価値である。したがって、創造とは、現在の価値基準で計られる価値の再生ではない。そして、創造とはまさに未来を志向するものである。

広島市の個性の1つに、工業・技術の蓄積がある。これらの「ものづくり文化」を、文化芸術やデザインの面から新しい光をあてることが可能である。

また、広島市は、ヒロシマ賞という、現代美術の分野で人類の平和に貢献した作家の業績を顕彰し、現代美術を通して「ヒロシマの心」を広く世界へとアピールする顕彰を3年に一度行っている。こうした活動と連携することで広島独自の文化芸術発信機能を強化できる。

## II 適格性（跡地にふさわしいものか）

### II-1. 広島市の都市像「国際平和文化都市」の実現に寄与すること

#### II-1-(1). 国際、平和、文化のいずれかの機能を強化するものであるか

#### 国際平和文化都市

広島市の都市像は、国際平和文化都市である。その訳語は、A International City of Peace and Culture であり、広島市は「平和と文化の国際都市」を標榜している。

広島市の平和が国際的なメッセージ性をもっていることと比較して、遜色なく国際性を備えた文化的なメッセージを発信する拠点としての機能を持つ必要があり、平和記念公園の平和と対をなす、文化の

ための機能を中央公園に整備することで、広島都市像を国内外により一層アピールすることが可能となる。

つまり、広島から発信する文化芸術機能の拠点として、球場跡地はもっとも適した場所である。

### 文化芸術と創造性の関連性

文化芸術振興基本法要綱前文では、文化芸術と創造性の関連性について簡潔に触れられている。

「文化芸術は、人々の創造性をはぐくみ、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するものであり、世界の平和に寄与するものである。更に、文化芸術は、それ自体が固有の意義と価値を有するとともに、それぞれの国やそれぞれの時代における国民共通のよりどころとして重要な意味を持ち、国際化が進展する中であって、自己認識の基点となり、文化的な伝統を尊重する心を育てるものである。」

ポイントは以下2点である。

- ・文化芸術は、創造性をはぐくむ
- ・創造性は、多様性への寛容さ、世界の平和へ寄与する

国、文化、社会、個人の違いを越えて双方が関係するには、一方がもう一方を同化するのではなく、両者がそれぞれの違いを保ちながら相手ににじり寄る必要がある。それが創造性であり、文化芸術はその創造性をはぐくむ。この点において、文化芸術は、豊かさであり、遊びの最たるものである。

いわゆる文化施設としては、社会教育の場として図書館や、展示物を鑑賞する場としての博物館・美術館など、音楽などの実演芸術を鑑賞する場としての劇場・音楽堂などが想起されるだろう。それぞれの定義を確認するならば以下ようになる。

- \* 〔図書館〕図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設（図書館法第二条）
- \* 〔博物館〕歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和二十五年法律第百十八号）による図書館を除く。）（博物館法第二条）
- \* 〔劇場、音楽堂等〕文化芸術に関する活動を行うための施設及びその施設の運営に係る人的体制により構成されるもののうち、その有する創意と知見をもって実演芸術の公演を企画し、又は行うこと等により、これを一般公衆に鑑賞させることを目的とするもの（他の施設と一体的に設置されている場合を含み、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（昭和二十三年法律第百二十二号）第二条第一項に規定する風俗営業又は同条第五項に規定する性風俗関連特殊営業を行うものを除く。）（劇場、音楽堂等の活性化に関する法律第二条）

旧広島市民球場跡地検討委員会であげられた、文化芸術機能の各具体例を、これらの定義に照らし合わせて、再整理すると以下のような分類になるだろう。

- \* 「劇場、ホール、公会堂、歌舞伎座、神楽殿、音楽専用ホール、ライブハウス」は、〔劇場、音楽堂等（C）〕に分類するのが妥当である。
- \* 「美術館、博物館（自然科学系、歴史系）、広島にゆかりのある人物の記念館、アニメ・マンガ拠点」は、〔博物館（B）〕に分類するのが妥当である。

- \* 「図書館」は、〔図書館 (A)〕で正しい。
- \* 「芸術文化活動拠点」は、(A)、(B)、(C) のいずれかに分類してしまふことはできないので、仮に (X)〔芸術文化活動拠点〕とする。

平和の国際都市としての広島は、片仮名の「ヒロシマ」に見られるように世界的に周知されている。一方で、文化の面においては一般の周知は未だ十分であるとは言いがたい。ヒロシマ賞などはそのよい例である。

II-1-(2). 西飛行場跡地や広島大学本部跡地、二葉の里地区など市内の大規模未利用地での分担の可能性はどうか

広島大学本部跡地には「知の拠点」が、「二葉の里地区」では福祉施設や経済拠点が計画されており、これらの未利用地と役割分担をする上でも球場跡地がふさわしい。西飛行場跡地は、都心部から距離があり、市民と観光客が恒常的に利用する機能向けの場所でない。

II-3. 良好な都市景観の形成につながること

II-3-(2). 周辺地域の景観に寄与するか

景観問題は、主に建物などの外観や人の動きなどによって計られるものである。

周辺地域の景観とはどのようなものであるか？

広島市の都心部における地勢はデルタに枝分かれする川に特徴がある。中でも都心部中央を流れる元安川はその主たるものである。したがって、中央公園から平和記念公園まで、元安川沿いに連続する空間は、広島市都心部の景観を代表するものである。

文化芸術機能に限らず、世界遺産原爆ドーム、平和記念公園、隣接する河川との一体的景観を醸成するには、施設の高さを極力抑え、南北方向及び上空に視界を大きく開く必要がある。このことにより、河川の大きな動きとその先にある山と海を想像することができる。これに対して東西方向には、隣接する商業エリアや居住エリアに容易にアクセス可能である。

景観をなすもう1つの要素に人がある。文化芸術機能に触れる観光客や市民は、そこで、学び、創造し、遊び、交流する。こうした活発な行為が、周囲から実際に見えることは、平和を希求する広島が復興を通じて何を目指そうとしているかを示す格好の意思表示となる。従って、施設の外観は外部に向かって開放的であることがふさわしい。

丹下健三の設計による平和記念公園は、その優れた設計によっても有名である。観光客は、資料館、慰霊碑、原爆ドームとあわせて、球場跡地にある施設を見ることになる。その時に、平和記念公園や原爆ドームと並んでその施設の外観も、広島市の都市としての性格を強く訴えかける優れた外観を持っている必要がある。このことから、球場跡地の施設の設計はコンペとして、広く優れた案を募るべきである。

II-3-(3). 平和大通りに直交する丹下健三の都市軸を生かしているか

丹下健三の都市軸とはなにか？

丹下の都市軸は、東西に延びる平和大通りから南北に直交する形で、南北に延びる。また、公園内では、つづら形の補助線が敷かれており、その外形をなす線を延長すると、その南の頂点は平和記念資料館西館の中央に位置し、北の頂点は原爆ドームに位置する。また、丹下は中央公園の構想も行っているがこれは実現していない。丹下の中央公園案には、子供の為の文化的施設な球技場などが描かれており、次代を担う世代を育てる意図が読める。また球技場の配置や緑地の中の緩やかなカーブを描く道（平和記念公園内の直線的な道の配置とは好対照）など、生きいきとした活動的な場としようとしたことを思わせる。

ここでは、本チームが提案するイメージ模型について述べる。(下図参照)



本チームが提案するイメージ模型は、丹下健三の構想及び都市軸を、北側に向けて発展的に継承するものである。ここでいう発展的継承とは、平和記念公園における、慰霊碑から原爆ドームを臨むパースペクティブに対して、球場跡地における〈創造の場〉から原爆ドームを臨むパースペクティブを配置することである。従って、これは単なる軸線の延伸ではない。

都市軸は、平和記念資料館のピロティ部分から北方向へ視界が一直線に開かれ、原爆ドームに至る。この都市軸を継承するには、原爆ドームの北側の球場跡地においても、一定の視界を軸線上に開く必要がある。また、都市軸の補助線であるつづら形の線を敷地の計画に活用することで、より一層、平和記念公園との一体感を創出することができる。

丹下健三の描いた中央公園の構想では、今日の球場跡地周辺には児童文化会館、同図書館、同科学美術博物館が計画されており、文化芸術機能はこの構想と親和性が高い。

なお、都市軸の南端は、谷口吉生の設計による環境局中工場まで延長されている。

II-4-(2). 広島市の特性を生かしているか

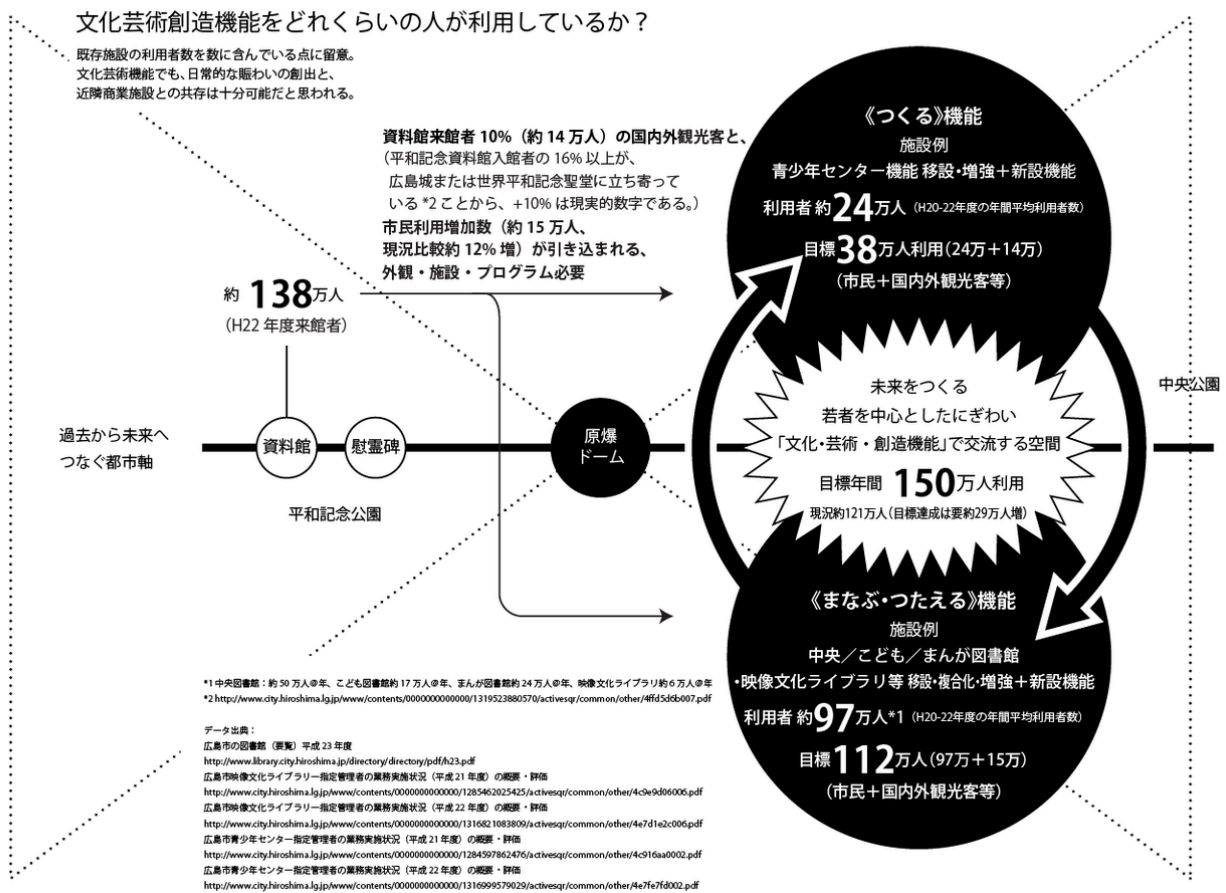
広島市にとって被爆からの復興というテーマは特別なものである。また、文化芸術とは新しい価値観の創造である。復興と創造は広島を語る2大テーマと言える。

### Ⅲ 効果（広島市の活性化等に資するか）

#### Ⅲ-1. にぎわいの創出につながる事

##### Ⅲ-1-(1). 休日だけでなく常時のにぎわいを創出できるものか

平日・休日を問わず一定のにぎわいを創出するためには、まず平和記念公園を訪れる多くの観光客や紙屋町・八丁堀を往来する市民が利用できるものである必要がある。本チームによる試算では、中央公園他の文化施設を球場跡地に再配置し、新たな文化芸術機能を付加した場合、その利用者数は150万人以上を見込んでいる。平和記念資料館の来館者数が約138万人（平成22年度）であることと比較しても、広島市都心部におけるにぎわいとしては一定のレベルに達していると考えられる。特に、常時アクセス可能な都市機能としては、中央図書館等「図書館」機能が相応しい。



以上のことから、文化芸術機能だけでも十分な恒常的なにぎわいを創出できるという。

なお、「劇場、音楽堂等」は、上演・鑑賞という利用方法であるため、常時のにぎわいを創出するには、休日・平日を問わず、相当な上演回数を準備する必要がある。また、イベントで常時のにぎわいを創出するた



めにも、常に異なるイベントを数珠つなぎに実施する必要があるが、その回数を実施できるのか、実施する主体が誰なのか、また、期待される動員数があるか疑問である。

### Ⅲ-1-(2). 子どもや家族、多様な世代が利用できるか

丹下健三の中央公園構想にあるような子どものための文化芸術施設が実現すれば、その家族や祖父母など多様な世代が利用できる。

### Ⅲ-2. 国内外からの集客が見込まれること

#### Ⅲ-2-(2). 海外からの集客が見込まれるか

国外からの観光客は、広島文化・歴史に触れ体験することを期待している。こうした観光客に対して、世界的水準で誇れる文化芸術機能及び交流機能が必要である。

広島市の恒久平和を実現しようとする理念に基づき、国内外の人々が文化芸術をテーマに交流する空間が実現できる。

### Ⅲ-3. 周辺地域との連携による相乗効果が期待できること

#### Ⅲ-3-(1). 中央公園の既存施設との連携を図ることができるか

中央公園内にあるいくつかの老朽化した文化芸術施設の機能刷新によって、より高度な連携が可能になる。また、中央公園外の諸施設とも積極的な連携をはかり市内一体となって文化芸術を盛り上げる必要がある。

中央公園の整備は部分的に段階を経て行われるものと考えられる。その際、中央公園の既存施設を、建物の建て替えにとどまらず、その設置目的と方法を再検討し、中央公園外の機能との統廃合や連携を検討すべきである。なお、そのためには十分な検討とトライアルの期間が必要であるため、諸機能の再配置・統廃合は段階的に行うべきである。その第一段階としては、中央図書館及び映像文化ライブラリー、こども図書館の球場跡地内への移転と機能強化がふさわしいと考える。これらの機能は、もともと多くの市民が利用できる一般的な文化機能であるため、その後の特徴ある他の文化芸術機能（「つくる」機能と「つたえる」機能）を付加していくための準備段階となる。

#### Ⅲ-3-(2). 地下街シャレオなど周辺地域との連携を図ることができるか

文化芸術に触れることで審美眼が養われ、消費活動の多様化が促進され、都心に集積した魅力ある商品の購入に繋がる。

シャレオや紙屋町・八丁堀の商業圏との連携は、長期的展望にたつて新しい消費者をつくることに活路がある。文化と芸術にふれることによって、より高品質なものを求める欲求を刺激し、郊外大型小売店舗やネットショップにはない、質やサービスを求める消費者を育てることが重要である。

球場跡地利用と周辺商店街などの活性化については、短期的な視点で結びつけるべきでない。商店街の衰退は全国で進行しており、社会情勢や消費活動の変化に伴う構造的なものである。なお、「広島県における「き」わいある商店街復活にむけての対応方策」（広島経済同友会、地域経済委員会、平成 22 年）において、

「第一には、個店の経営努力・取り組みに期待」とある。

Ⅲ-3-(3). もう一つの都心の核である広島駅周辺地区との連携を図ることができるか

球場跡地は平和記念公園と一帯となって平和と文化による国際性を演出し、紙屋町・八丁堀・広島駅周辺は中国地方最大の経済活動エリアとして機能強化されることで、役割分担が明確になる。

Ⅲ-4. 将来の社会環境の変化に対応するものであること

Ⅲ-4-(1). 少子高齢化の進展や人口の減少などに対応したものであるか

少子高齢化

国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、中国地方の市町村人口は、平成 45 年（2035）頃には大きく減少傾向に傾く。現在からおよそ 22 年後のことである。同データによれば、関東・近畿地方の大都市圏への人口集中傾向は続き、いわゆる地方自治体では過疎化が進行する。広島市全体としては、緩やかな人口減にとどまり、安佐南区においては微増が見込まれている。

おおまかに言えば、都市への集中と地方の過疎化が進行するものと考えられる。このことから、広島市に対する、周辺自治体からの中核都市独自の都市機能への期待度は今後高まると思われる。その中心的期待は、経済活動の拠点性と、豊かな生活の空間だと思われる。前者については、広島駅前や紙屋町八丁堀が舞台だろう。そして、後者の「豊かな生活」の文化的豊かさをサービスする空間が中央公園・球場跡地にあることがふさわしい。